

農業振興対策について、JAとの合同事業の基本姿勢は

質問

奥州市の発展は農業振興なしには語ることはできない。両JAに於いては地域経済、農業振興に多大な役割を果たして頂いて来たものと考えている。望ましい農業を形成していくためには合同事業の見直し拡充を行うべきである。

また、地域農業を守る観点から、両JAに於いて外部出資型農業法人に向け、設立の方向にある。円滑な事業推進のため、支援を行うべきと思うがその考えについて。

市長

合同事業に於いては事業主体はJAとなっており、米、畜産、野菜を含め、多様な農産物の生産拡大に向けて産地づくり、地域ブランド推進等に支援を行う。今後は事業の見直しに向け両JAと協議を進める。また、外部出資型農業法人については合同事業見直しの中で、市として何が出来るか検討する。

保養施設の民間移譲の対策は

質問

市内5カ所の保養施設は平成30年度以降、民間移譲の方針が示されているがその



加藤 清 議員(新世会)

対策が不備と思われる。保全改修を要する施設、抜本的に経営の見直しを計る施設、さらには市民理解を得るための対応策など、民間移譲に向けた具体的方針について伺う。

市長

対話型市場調査を実施し完全民営化に向けた協議を進める。いずれの施設も老朽化が進んでいることから、民間のノウハウを基に現状を維持するため施設整備を行う、ひめかゆの「ブナのしづく構想」については役員と協議の上、今後の方針を定めてゆく。



農業振興、地域経済を支えているJA岩手ふるさと農協

新市立病院、大丈夫か医師確保

質問

求められる地域医療づくりの根幹は医師確保に掛かっている。新築の病院にもかかわらず医師不足による赤字病院が問題となっている今日、赤字病院にならぬよう若手医師が来やすい指導医の充実や安心の勤務体制づくりが必要と考える。市の医大奨学生の状況ふくめ医師確保の現状と今後策を聞く。

市長

現状は指導医が3名、今年の奨学生希望者はゼロ。市長院長が東北大岩手医大へ2、3回の医師派遣願いに足を運んでいる。

質問

指導医は3名と少なく、奨学生応募もない。たった年2、3回の医大訪問では大変に不安だが。

病院管理者

将来的な医師確保が非常に困難なことは事実。医大への市長・院長訪問はそのとおりだが水沢病院の同大出身者などが頻繁に話をしている状況がある。

日高火防祭を世界遺産に

質問

昨年、ユネスコ無形文化遺産に日本33箇所「山・鉾・屋台行事」が登録された。三百有余年の歴史をもつ日高火防祭は県内外に知られる由緒ある祭り。市民から登録を望む声が上がっている。市の姿勢を聞く。

市長

今回登録となった祭りとは比べなから遜色ないと感じる。県と国に対し働きかけを行う。



世界が観に来る“お祭り”に！

教育委員長

登録の前提条件として国指定が必要。県国の指定に必要な資料集めや調査を行う。

質問

屋台に乗る子供、祭り運行スタッフ、屋台修理の予算不足が問題となっている。町組内運営が困難な場合は広く運営システム拡大も必要と考えるが。

市長

伝統ある祭りが継続できるように、保存会や実行委員会など組織と連携協力して、共に知恵を出し合い応援していく。



内田 和良 議員(無会派)